



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：シリア情勢に関する米国との第一回「計画立案」会合

(23日付現地紙)

2012年8月23日付現地紙は、トルコで開催されたシリア情勢に関するトルコ・米国間の第一回「計画立案」会合について報じている。その概要は以下のとおり。

1. アンカラで23日、上記会合が開催された。エリザベス・ジョーンズ国務次官補を長とし、軍・情報関係者を含む米国側代表団は、動揺に軍・情報関係者を含むハリット・チェヴィキ外務次官補を長とするトルコ側代表団と秘匿された会場で会合を行った。
2. 同会合は、シリア国民への人道支援を送達するための協力と、アサド政権崩壊後の共通のロードマップを作成することを目標としている。
3. 会合において最重要課題として議論されたのは、増大し続けるシリアからの避難民に関し、トルコ政府が「10万人を超えた場合、トルコは国境のシリア側において支援を行わなければならないだろう」とした点であった。米国側は越境に消極的な姿勢を示したが、この問題を議論することについては反対しなかった。外交筋によれば、今回の会合での結果は必ずしも速やかな実施を要するものではなかったという。今回の会合で議論されたコンテンツェンシー・プランは、シリアの強力な生物化学兵器の貯蔵及びアサド政権軍による使用の可能性についても触れている。
4. 会合では、アサド政権が崩壊した場合に、混乱を回避し円滑な政権移行を実現することの必要性についても取り上げられた。シリアの力の空白に乗じつつあるとされるクルド労働者党（PKK）やアルカーイダを含む武力勢力の脅威についても、会合において重要議題として議論されたものと見られる。
5. 今回の会合は、8月11日のクリントン国務長官とダーヴトオウル外相と会談において開催が決められたものである。